

眼内リンパ腫

眼内リンパ腫について

眼内リンパ腫は、眼の中（主に硝子体や網膜）に発生するまれなタイプのリンパ腫で、特に硝子体網膜リンパ腫（Vitreoretinal Lymphoma: VRL）と呼ばれるものが多くみられます。この病気は 原発性中枢神経系リンパ腫（Primary Central Nervous System Lymphoma: PCNSL） の一種で、悪性度が高く、進行すると脳や脊髄にも広がる可能性があります。リンパ腫のタイプとしては、びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫（Diffuse Large B-Cell Lymphoma: DLBCL）が多くなっています。

症状について

眼内リンパ腫の症状は、慢性的なぶどう膜炎（眼の炎症の病気） に似ているため、診断も難しく、主な症状には以下のようなものがあります。

- 視力の低下
- かすみ目（霧がかかったように見える）
- 飛蚊症（黒い点や糸のようなものが視界に浮かぶ）
- 光がまぶしく感じる（光視症）
- 目の痛みや充血はほとんどない
- ステロイド治療をしても 改善しない（普通のぶどう膜炎なら改善することが多い。）

特徴的なのは、治療しても症状が良ならず、再発を繰り返すことです。

診断について

この病気の診断は難しく、他の病気と間違われることが多いため、詳しい検査が必要です。診断のために行う主な検査には以下のようなものがあります。

(1) 眼の検査

- 眼底検査：網膜や硝子体の異常を確認する。
- 光干渉断層計（OCT）：網膜の詳細な構造を調べる。

- フルオレセイン蛍光眼底造影（FA）：血管の異常や腫瘍の状態などをチェックする。
- (2) 検体検査
- 硝子体生検（眼の内部の硝子体液を採取して病理検査などを行う。）
 - 前房水検査（眼の前の部分の前房水のサイトカインなどを調べる。）
- (3) 中枢神経の検査
- 眼内リンパ腫の多くは 脳や脊髄にも広がるため、MRI 検査などを行い、病気の広がりを調べる。

治療について

現在、標準的な治療法は確立されていないものの、以下のような治療が行われています。

- (1) 硝子体内注射（局所治療）
- メトトレキサート（MTX）
眼の中に直接抗がん剤を注射することで、腫瘍の増殖を抑えます。
- (2) 全身治療
- 高用量メトトレキサート（MTX）療法
中枢神経系リンパ腫も合併する場合などに行われる。
- (3) 放射線治療
- 眼に放射線を当てて腫瘍を縮小させる。ただし、視力低下などの副作用もあるため、慎重に検討される。

執筆者

- 氏名： 牛田 宏昭
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 眼科